

## ●スカイスポーツ拠点

目の下に日豊海岸国定公園の景観が広がり、すぐ手の届くようなところに島浦(延岡市島浦町)が浮かぶ。その日豊海岸に向かって一気に滑空するスカイスポーツのメッカとなっているのが北川町・鏡山(六四五m)である。地元では鏡山を「風と光の丘」と呼ぶ。

国道10号のJ R市棚駅のそばから車で約二十分。鏡山はなだらかな丘陵で、山頂近くには広々とした町営の牧場があつてエキゾチックな風車が回っている。百数十頭の「鏡山牛」が放牧され、のどかに草をはんでいる。

ここで開催されるのがスカイスポーツフェスティバル。第一回が一九八七(昭和六十二年)。最初はハンググライダーだけだったが、九三(平成五)年からパラグライダーも加わった。開催は毎年五月。今年は五月三、四日にパラグライダー、十、十一日がハンググライダー大会。



鏡山から見る日豊海岸の景観。鳥人たちは「究極のエリア」に酔いしれる

全国からトップフライヤーたちが集まり、ラディング地点の延岡市・熊野江海岸に向かって、鮮やかな飛行を披露する。大会期間中、鏡山は赤、青、黄色のカラフルな色彩で埋まる。

同フェスティバルを主催するのは町長が会長を務める実行委員会。町を挙げて受け入れ態勢を整える。大会参加者は毎年百人ほど。黒潮の香りを含んだ風を受け、「日向松島」と呼ばれる素晴らしいパノラマを眼下に眺めながらの飛行に鳥人たちは酔いしれ、鏡山を「究極のエリア」と感じるという。

大会以外の時に訪れる人も多く、年間を通して利用者は絶えない。

最初は町民憩いの場として開発されたが、太平洋に向かって開けた絶好の条件を生かしてスカイスポーツの拠点になった。地域振興は地域の真価をよく知り、それを広く活用して地域の

利を上げることにあるが、日豊海岸の景観を存分に活用した鏡山はその典型であろう。

ただ、残念なことは鏡山のもう一つの魅力だった家族で楽しめる点が近年、少し色あせてきたこと。九〇年代初めまではアスレチック施設、小動物コーナー、人工芝スキー場なども整備され、子供、若者の人気も高かった。しかし、現在はそれらもなくなり、再開発の計画もないという。

北川町は町の九割が山林。貴重な癒やしの空間を提供している。それらを今後はどう生かしていくか。今、それが問われている。

甲斐亮典